三 愛 学 園

児童養護施設さんあい　一時保護所オリーブ　自立援助ホーム三愛子ひつじ寮

社会福祉法人　三愛学園
〒369-0212　埼玉県深谷市櫛挽 15-2
Tel　048-585-0605　　Fax048-585-0562
Mail　san-ai@isis.ocn.ne.jp
URL　san-ai-jidouyougo.org

「いつも喜び、絶えず祈り、全てのことに感謝しなさい。」（聖書・テサロニケ人への手紙Ⅰ　5 章）

理事長　髙瀬一使徒

先月の法人理事会及び評議会に於いて、2022 年度の活動報告及び決算報告が承認されました。またその他の重要事項として、創設者である髙瀬範子理事を始めとする数名の方が理事・評議員を退任され、新たに就任いただく方々が承認されました。髙瀬範子前理事長に関しましては長年の功績を讃え「名誉園長」として新たに就任いただき、今後も高所大所より法人にアドバイスをいただきたいと願っております。

戦争等の影響で世界中が物価高騰に苦しんでいます。特に日本は円安、人手不足、経済低迷で一層困難な状況です。しかもこれから電力や水の消費も多くなります。海や山にお出掛けの季節で出費も増えるでしょう。正直に申し上げれば、昨年度の決算はかなり厳しい結果になりました。法人全体のお財布を守る者として頭を抱えそうになります。しかし、自分のことで精一杯であった戦中・戦後の混乱の中で子どもたちを守り抜いた日本の児童養護の先人たち、或いは今この時も身の危険を顧みずに子どもたちを守っているウクライナの児童福祉関係の方々がいます。その姿勢から学び、感謝しながら前を向いて今年度も歩んで行きたいと思います。その小さな証として、今回の創立記念祭のバザー売り上げ金の一部はウクライナの避難民とタイの児童養護施設への支援金として用いさせていただきます。引き続き皆様の温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

「かけがえのない仕事」

施設長　平本　実

人工知能（AI）により文章や画像などを生成することが話題となっています。私も早速、文章制作 AI の Chat GPT を試してみたところ、なかなかの文章が作られてきたので驚きました。ある程度、定型化された内容、場面、相手であれば、人工知能の力を借りることで時間の節約、作業の効率化ができることを確信しました。

ある日、通院した中規模病院では、受付の案内にはロボットが設置されていました。ファミリー・レストランにはいれば、注文した料理をロボットが運んできます。人手不足に加えて負担軽減も視野に入れ、介護分野ではロボットの導入も真剣に議論をされています。今後、教育、医療、福祉の世界にも確実に AI やロボットの導入は進むことが予想されます。

しかし、遠藤久江先生の「近い将来さまざまな職業がなくなるといわれるなかで、保育士の仕事、ひいては福祉の仕事は AI には代替できないもので、絶対に生き残る職業」*という考えに、私は同意します。それは、利用者である子ども達の日々の生活を支え、そこで起きる喜び、悲しみ、痛みに触れ、ともに喜び、ともに泣くことは、人間にしかできないからです。聖書ローマの信徒への手紙 12 章 15 節にも、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」と記されています。対人援助の基本的視点です。

コロナ過でエッセンシャル・ワークと呼ばれる社会にとってかかせない、かけがえのない仕事に注目が集まりました。子どもを守り、育てることは、社会にとってまさにかけがえのない仕事です。誇りと共に責任の重さを感じつつ仕事に励みたいと思います。大事なことを書き忘れるところでした。この文章を書くにあたって AI は使いませんでした?!

＊ 佐藤優、遠藤久江、池上和子『子どもを守る仕事』筑摩書房、2020 年

さんあいまつり

社会福祉法人三愛学園創立記念祭「さんあいまつり」が４年ぶりに開催されました。台風が接近し心配された天候も守られ、６月の晴天の下、地域の方々、卒園生や支援者の方々をはじめたくさんの方にご来場いただき、今までにないほどの大盛況でした。ご協力くださったボランティアの皆様、出店していただいた支援者の皆様、アトラクションで盛り上げていただいたキッズダンスや櫛挽鳴子会の皆様、ご来場してくださった全ての皆様に、職員一同心より感謝申し上げます。

キッズダンス（HOT　WAVE）

櫛挽鳴子会

松村貴幸さんのストリートバスケットボール・クリニック

同窓会

さんあいまつり終了後に第 5 回同窓会を開催、総勢 50 名の卒園生、元職員、現職員が参加しました。家庭を持ち、家族を連れて参加した卒園生もいて、うれしい再会や楽しい出会いの時となりました。こちらも 4 年ぶりの開催となった同窓会。待ちわびていた機会に時間を忘れて語り合う姿が見られました。歓談の後は参加者全員でのビンゴ大会。楽しい時間はあっという間に終わり、次回も元気で再会しようと約束をして、散会となりました。

２０２２年度さんあいケアワーク総括

女の子ブロック（河村主任）

令和４年度は、幼児２名と小学生１名が新しく加わり、幼児３名、小学生８名、中学生３名、高校生４名の計１８名の児童と、新任職員３名を加えた１２名の職員でスタートしました。年度途中に高校生１名が退所となり、新たに小学生を迎えました。年度末には小さい頃からさんあいで生活していた高３児童２名が退所。退所の日まで職員はバタバタでしたが、退所の時は職員も子どもたちも涙々のお別れになりました。

「ねむの木」は新たに小学生１名と幼児１名を迎え、昨年度とはガラッと雰囲気が変わりました。幼児さんの対応でバタバタとしている職員に、「私やるよ！」「何手伝えばいい？」と自然に言葉が出て来る場面が沢山ありました。コロナ感染者が出て自室待機となることが何回もありましたが、文句一つ言わず、「大変だけど頑張って！」と職員に声を掛けてくれました。夏の特別部屋外出では、１日目に海水浴へ行き、２日目はフォレストアドベンチャーを体験。２日間アクティブに身体を動かし、キラキラの笑顔を見せてくれました。令和５年度も担当職員が変わらないので、これからも一人ひとりの良い部分を伸ばしていければと思います。

「いちょう」は新たに幼児の男の子１名を迎えスタートしました。久しぶりに女の子のお部屋で男の子を受け入れ、少し不安もありましたが、あっという間にお部屋のアイドルになりました。特別部屋外出では横浜へ行き、八景島シーパラダイス、中華街、カップヌードルミュージアムへ行き、色々な経験をして身体も心も一回り大きくなって（？）帰ってきました。

一方、クリスマス後にコロナ嘔吐下痢症が流行り、我慢我慢の年末年始となってしまいました。何か１つでも良い思い出をとのホーム職員の発案で、年度末に交流ホールを利用して全員での「雑魚寝」を企画。美味しいものを食べたり、皆で布団を敷いて並んで寝たりという普段はできない特別な経験をして、楽しい時間となりました。大学進学を目指していた高３児童は無事に大学に合格し、笑顔でさんあいを退所しました。

「ポプラ」はお菓子作りや絵を描くことが得意な個性派揃いのホームです。令和４年度も子どもたちの「やりたい！」を叶えるため、定期的に部屋会議で子どもたちの意見を確認しました。毎月１日の「ふわふわ言葉の日」はすっかり定着し、子どもたち自身が言葉遣いに気を付けることができるようになりました。長期休み恒例の「リビングで雑魚寝」は今年度も実施。特別な時間となっています。特別部屋外出では、西武園ゆうえんちへ行ったり川越散策をしたりしました。美味しいものを沢山食べて、笑顔がいっぱいのおでかけとなりました。高３児童の退所の日、長い間さんあいで生活していた本人と職員は涙々のお別れになりました。

男の子ブロック（加藤主任）

昨年度退所児童が１名もいなかったことから、今年度はまったく同じ顔ぶれで始まりました。居室の振り分けを発表した際には、子ども同士の相性もあり「また〇〇と一緒かよ～」「〇〇と一緒で良かった～」等様々な

声が飛び交いました。しかし丸2年一緒に生活するともなると、お互いに折り合いをつけ、相性があまり良くなかった児童同士も適度な距離感を保って生活することができるようになっています。

今年度は同じ職員が1年間変わらずにユニットの子どもたちに関わり続けられたことは本当に感謝でした。改めて職員の継続的な関わりが、子ども達にとってどれだけ安心した環境であるかを感じさせられた1年でした。

また、今年度、在籍した高校3年生4名の内男児2名の進路の支援に関しても多忙な1年でした。例年、高校3年生が退所する前に実施する自活訓練も、限られたスペースを順番に使用するため、早めに予定を立てる必要に迫られました。

早い段階から進学か就職かの進路選択の話も進め、大学に進学する意思を固めた高3男児には奨学金の手続き、就職と決めた高3男児には一人暮らしで掛かる費用の話等を進めながら、無事希望する進路先へ送り出すことができました。さんあい祭り（創立記念祭）にはボランティアとして参加。元気な姿を見せてくれました。諸行事については、今年度もコロナに振り回される1年でした。感染者が出たことにより、夏休みに予定していた特別部屋外出（部屋全員で外泊を含む外出）の延期を強いられたお部屋もありました。また、年末年始にもコロナの陽性者が出たことにより、楽しみにしていた大晦日の夜更かしや年始の正月外出等もできず、我慢の年越しとなってしまいました。新年度の5月にはコロナも5類感染症へと移行になります。濃厚接触者という概念がなくなり、体調不良者が出たとしてもその児童のみが安静にするように対応が変わることで、学校生活も含めて同室の児童の生活全体への影響が軽減され、以前のような生活がまたできるようになることを児童・職員ともども楽しみにしています。

一時保護所「オリーブ男子」（釜谷リーダー）

今年度4月から定員6名の男の子オリーブが開所し、1年で延べ26人の児童を受け入れることができました。既設の女の子オリーブを合わせると今年度は述べ57名の一時保護児童を受け入れたことになります。兄妹の同時受け入れも1件あり、兄弟分離をせずに保護ができたことは男女両方の受け入れが可能なさんあいの強みとなりました。子どもたちは在所中、園内の行事や外出にも参加し、家庭ではなかなか経験できない事も他の子ども達と一緒に楽しむことができました。今後とも家庭的養護を念頭に、子どもたちの気持ちに寄り添い、一時的な親役として多くの子どもたちの安心・安全・快適な居場所を作り上げていきたいと願っています。

一時保護所「オリーブ女子」（柳井リーダー）

保護期間中は、一日の流れに沿い、学習や遊び、掃除等に取り組みました。学習面は、学習ボランティア等の先生にサポートをしていただいていますが、職員自身も教え方や学習能力の把握、どんな学習教材が良いか、知識が必要です。チームで情報収集しながら知識の幅を広げていきたいと思います。また、男の子オリーブが開設されたことにより、男女一緒での外出も何度か実施しました。楽しさを共有しつつ、いつもと違った環境で気分転換にもなりました。

男の子オリーブの開設に伴い職員異動もあり、男女オリーブの職員合同での会議、研修も実施されるようになりました。引き続き、男女で情報共有をしながら、丁寧な援助を基盤に一時保護後の方向性を決めるアセスメント力を高めていきたいと思います。

子ひつじ寮

常勤４名、本園からの応援２名、事務員１名という新たな勤務体制で新年度が始まりました。職員が増えるということは、さまざまな考え方の社会人が集まるということです。学校や家庭とは違う本物のおとな社会に触れられる、いい生活環境になりました。利用者７名も高校生・大学生・受験生・社会人と多彩な顔ぶれです。通学組は、お天気情報も含めて、毎日規則正しく登校し、生活リズムの基準になってくれます。勉強がたいへんと言いつつ、つい頑張り過ぎてしまうので、職員がブレーキをかけることも。受験生組は、オープンキャンパスに参加し受験校を絞り始めました。リビングで受験勉強をする姿も見られます。社会人組は、地道に貯金額を増やす子、新たな職場で奮闘する子、転職しながら自分の向き不向きを学んでいる子もいます。ステップハウスは今後ますます活用が期待されます。朝夕食のみ食べに来る子は、仕事で疲れて帰宅しても誰もいないのは寂しいと話しており、孤独とどう向き合かが一人暮らしの大きな壁なのだなと実感します。来春退寮予定者の自活訓練にも利用されており、生活環境を変えることで少しずつ独立心が芽生えればと思います。子ひつじ寮は、職員・利用者のメンバーが変わると寮内の雰囲気も大きく変わります。生活を創る一人ひとりの個性の積み重ねのなかで、お互いの長所に気づき合うことが「思いやり」をはぐくむ礎になるのではないかと思います。（佐藤）

女の子オリーブ

現在、６名が在籍しています。そのうち幼児が２名、４人が小学生です。小学生は遊び方が似通っており、楽しく話をしながら元気いっぱいに過ごしています。今流行っていることは、ビーズでブレスレットや指輪を作る事です。様々な色や形のビーズを組み合わせて作った物をお互いにプレゼントし合っています。時にはすれ違いもありますが、お互いに思いやりをもって生活しています。（釜谷）

アニマルクラブ

新年度の節目では、改めて子どもたちにクラブへの参加希望を確認します。殆どの子は継続希望ですが、学校の部活や高校受験等でやめる子や新たに参加を希望する子もいます。そして先月、改めて新メンバー12 名で今年の目標や希望する活動を話し合いました。今年の目標は、「ありがとう」の感謝の気持ちを持つ事、そしてその気持ちを相手に言葉で伝える事、にしました。当番の時は他のメンバーと協力しなければなりません。手伝ってもらった時は、「ありがとう。」集合時間に遅れてしまった時、代わりにお当番をしてくれて「ありがとう。」ポニーちゃんを抱っこさせてくれて「ありがとう。」トトちゃん一緒に走ってくれて「ありがとう。」ぶどうの木では、いつも“ありがとう”でいっぱいです。（村尾）

さんあいレスラン

小学生の運動会の振休日に、交流ホールで「さんあいレストラン」をオープンしました。今回はイタリアンをテーマに、ナポリタン、カルボナーラ、ミートソース、和風ツナのパスタ４種と焼きたてピザ、ミモザサラダ、からあげ、ウインナー、揚げパンなどを用意。ビュッフェ形式にして楽しく食べました。友達に「これ美味しいよ!」など勧めあいながら、小学生だけの楽しい時間を過ごしていました。デザートは、目の前で作り上げる「いちごスムージー」。ミキサーにいちごのコンポートとバニラアイス、牛乳を入れスイッチオン！冷たく甘いおいしいデザートに大喜び。イタリアンフルコースで大満足の「さんあいレストラン」となりました。（坂田）

ぶどうの木改修工事

犬とウサギの飼育小屋「ぶどうの木」は、つくりは簡易なものですが、児童と動物との大切なふれあいの場となっています。ただ、近年の気候変動の影響もあり、夏場の暑さや冬場の寒さは尋常ではなく、児童が長い時間を過ごすには適当な環境とはいえません。昨年の夏は、猛暑で病気になる恐れがあったので犬たちを日中、一時的に事務室に避難させる事態となりました。そこで公益財団法人葉田財団子どもの未来助成事業の支援をいただき、ぶどうの木の改修を行いました。空調設備を整え、いつでも児童が安心して動物と触れ合い、飼育が続けられる環境整備ができました。（平本）

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。
ご寄付は同封させていただいた振込用紙、または下記の口座にお願いいたします。＊お名前をお入れください＊
埼玉りそな銀行　岡部支店（普）0058888
ﾌｸ）ｻﾝｱｲｶﾞｸｴﾝ　ﾘｼﾞﾁｮｳﾀｶｾｶｽﾞｼﾄ

編集後記

五月晴れから、じりじりと太陽が照りつける真夏の陽気になった途端、待ってましたと中庭でプール遊びをする子ども達。夏休みの風景が早送りでやって来たようで、驚いてしまいます。最近の異常気象は予測不能で困ります。

今年もたわわに実った園内のぶどう。去年の今頃は、深谷市は雹被害を受け、ぶどうも食べることができませんでした。今年は雹が降りませんようにと祈るばかりです。（広報タスクチーム一同）